

新規検査・検査内容の変更のご案内(2024年1月開始)

2024年1月より、『proFeLV・proFIV遺伝子検査』、『兎の梅毒菌』の検査を開始いたします。また、犬・猫下痢パネルの検査内容および検査費用を変更いたします。本案内に詳細を記しますので、ご確認いただきますようお願い申し上げます。

proFeLV・proFIV遺伝子検査

New

本検査は、猫白血病ウイルス（FeLV）と猫免疫不全ウイルス（FIV）の感染の有無を判定する検査です。PCR法を用い猫のDNAの中に組み込まれた両ウイルス由来のDNAを検出します。院内の簡易キットでは感染の判定が難しい症例（院内キットのスポット/線が不明瞭、移行抗体の可能性が高い等）などでご利用下さい。

【費用】 ¥7,000（税抜） 【検体】 EDTA処理全血0.5cc 【報告日数】 5営業日

兎の梅毒菌の遺伝子検査

New

兎の会陰部、肛門、生殖器、口唇、眼、鼻孔などの潰瘍の原因となる兎の梅毒菌（*Treponema cuniculi*）をPCR法を用い検出する検査を開始します。原因の特定に有用な検査です。

【費用】 ¥4,500（税抜） 【検体】 病変部の拭い液 【報告日数】 5営業日

犬・猫下痢パネルの病原体・検査費用の変更

変更

New

◇アピコンプレクサ類を削除しクリプトスポリジウム属を導入

これまで、クリプトスポリジウム、コクシジウム、トキソプラズマなどが含まれるアピコンプレクサ類を検出してきましたが病原体の特定を希望されるお客様が多くいらっしゃいました。そこで、アピコンプレクサ類は下痢パネルの基本セットから削除しクリプトスポリジウム属を特異的に検出する検査に変更します（追加の費用はかかりますが、下痢パネルの基本セットにアピコンプレクサ類を追加することが可能です）。

◇犬ジステンパーウイルスを削除し犬アストロウイルスを導入

犬ジステンパーウイルス（CDV）はウイルス性の下痢だけでなく、呼吸器疾患や神経系の疾患などの原因となる重要なウイルスです。しかし、国内ではワクチン接種が進み野生株のCDVが検出されることが非常に稀になってきました。そこで、犬下痢パネルの基本セットからはCDVを削除します（追加の費用はかかりますが下痢パネルの基本セットにCDVを追加することが可能です）。CDVの代わりに犬アストロウイルス（CaAstV）を導入します。CaAstVは消化器症状を呈する症例から高頻度に検出されるウイルスで下痢の1つの原因と考えられるようになった新しいウイルスです。

◇検査費用の明瞭化

これまで検出する病原体の数が異なるにもかかわらず、犬・猫どちらのパネルも¥10,800（税抜）でした。変更後は10病原体を検出する犬下痢パネルは¥11,000（税抜）、9病原体を検出する猫下痢パネルは¥10,500（税抜）とします。下の表に検出する病原体と価格を記します。

病原体（基本セット）	犬	猫	検査費用（税抜）	変更前（税抜）
クリプトスポリジウム属	○	○	1 病原体：病原体により異なる（裏面参照） 2 病原体：¥7,000 3 病原体：¥7,500 4 病原体：¥8,000 5 病原体：¥8,500 6 病原体：¥9,000 7 病原体：¥9,500 8 病原体：¥10,000 9 病原体：¥10,500（猫下痢パネル） 10 病原体：¥11,000（犬下痢パネル）	¥6,000
ジアルジア（ <i>G. intestinalis</i> ）	○	○		
糞線虫（ <i>Strongyloides</i> spp.）	○	○		
サルモネラ属	○	○		
カンピロバクター（ <i>C. coli</i> , <i>C. jejuni</i> ）	○	○		
トリコモナス	○	○		
コロナウイルス	○	○		
パルボウイルス	○	○		
サーコウイルス	○	—		
アストロウイルス	○	—		
ポカウイルス	—	○		

○：検出する病原体、—：検出しない病原体